原　　文（指摘事項・指摘事由）

執権（政所，侍所の長官）となっていた北条氏が	北条時政が侍所の長官になっていたかのように誤解するおそれのある表現である。
さらに京都から摂関家の子弟や幼少の親王を幕府の将軍としてむかえることとした	泰時の代にはじめて摂家将軍や皇族将軍をむかえることとしたかのように誤解するおそれのある表現である。

承久の乱と執権政治　頼朝が没して20年後，3代将軍実朝が暗殺された。そのあいだ他の有力御家人を次つぎにたおし，執権（政所，侍所の長官）となっていた北条氏が，政治の実権をにぎった。後鳥羽上皇は，1221（承久3）年，幕府をたおそうとして，北条氏を討つ命令を全国の武士に出した。しかし北条氏は，京都に大軍をおくり，上皇軍を破った。これを**承久の乱**という。

乱のあと，幕府は上皇に味方した公家（貴族）や武士の領地を取り上げ，東国の御家人を新たに地頭に任命した。京都には六波羅探題を設け，北条氏一族をおき，朝廷の監視や西国御家人の支配にあたらせた。こうして幕府の勢力は西国にもいちだんとひろがった。

北条泰時の政治　3代執権となった泰時は，有力な御家人のなかから，評定衆を選び，幕府のだいじな問題は，その会議できめることにした。さらに京都から摂関家の子弟や幼少の親王を幕府の将軍としてむかえることとしたした。

修　正　文

承久の乱と執権政治　頼朝が没すると，北条氏は，他の有力御家人を次つぎにたおすとともに，執権になって政治の実権をにぎった。1219年に3代将軍実朝が暗殺されて源氏がほろびると，京都の摂関家の子弟を将軍にむかえた。

1221（承久3）年，後鳥羽上皇は，幕府をたおそうとして，北条氏を討つ命令を全国の武士に出した。しかし北条氏は京都に大軍をおくり，上皇軍を破った。これを**承久の乱**という。

乱のあと，幕府は上皇に味方した公家（貴族）や武士の領地を取り上げ，東国の御家人を新たに地頭に任命した。京都には六波羅探題を設け，北条氏一族をおき，朝廷の監視や西国御家人の支配にあたらせた。こうして幕府の勢力は西国にもいちだんとひろがり，執権北条氏による政治支配の体制ができあがった。

北条泰時の政治　3代執権となった泰時は，有力な御家人のなかから，評定衆を選び，幕府のだいじな問題は，その会議できめることにした。